

物理学系（学士課程）

アドミッション・ポリシー（入学者に求める能力と適性）

理学院学士課程では、幅広い教育と自由な発想に基づいた研究を通じて、社会や文化の発展に広く貢献することを目指しています。そのために次のような学生を求めます。

- ・自然界の仕組みについて深く知りたいという強い好奇心を持つ人
- ・教わるだけでなく、自ら主体的に学ぶことができる人
- ・自分の意見を持ち、他者と議論することができる人
- ・十分な学力と表現力を持つ

物理学系では、次のような学生を求めています。

- ・自然界の仕組みについて深く知りたいという強い好奇心がある者
- ・教わるだけでなく、自ら学び、議論を通して理解を深める意欲がある者
- ・大学で学ぶための十分な学力があり、新たな知識と技術を求めている者
- ・学問を通して国際的視野を育みたい者

アドミッション・ポリシー（入学者選抜方針）

【一般選抜（前期日程）】《全学院共通》

求める能力と適性を有する人材を選抜するために、高等学校の段階の学力確認を行うとともに、本学で学ぶために必要となる、数学、物理、化学および英語に関わる基礎学力ならびにこれを応用する力、論理的な思考力を評価する試験を行います。

【学校推薦型選抜】《理学院》

個別学力検査を免除し、大学入学共通テストの成績、出願書類及び調査書を総合的に評価して合格者を決定します。

物理学系（学士課程）

カリキュラム・ポリシー（教育内容）

本系では、「ディプロマ・ポリシー（修得する能力）を身につけるために、次のような内容の学修を行う。

A) 物理学系における基礎学修

物理学についての学力の涵養として、物理学系での教育の基礎となる、物理数学、解析力学、電磁気学、熱力学など古典物理学の基礎科目を身に付ける。

B) 物理学実験を通じた実践的な学修

物理学は実験による検証を基本的に行っているため、物理学系においても実験の重要性を強調し、その実践には多くの時間を割いている。

C) 基幹専門科目の実践的学修

物理学系としての最重要科目の電磁気学、量子力学、統計力学などについては、実践的な学力を修得できるように力を注いでいる。それぞれの講義の中で演習を設け、少人数クラスによる実践的訓練を徹底している。

D) 先端分野に関する応用学修

基礎固体物理学、一般相対論、宇宙物理学、原子核物理学、素粒子物理学、化学物理学など、物理学の個別分野について、最先端の成果を含めその学問体系について学ぶ。

E) コミュニケーション能力の強化学修

コミュニケーション力、発表能力の涵養として、学士特定課題研究における発表は必須とし、論理的に研究成果を表現できること、またコミュニケーションの能力を持つことを目指す。

なお、物理学系に所属を志望する1年生は力学基礎1/2, 電磁気学基礎1/2, 物理学演習第一/第二, 物理学実験第一/第二, 理学院リテラシー, 科学・技術の創造プロセスを履修しておくことが望ましい。

ディプロマ・ポリシー（修得する能力）

物理学系では、次のような能力を修得することを目指す。

- ・基本的な物理学の学力
- ・実験や演習により養われる実践的問題解決能力
- ・最先端の自然科学研究に触れることで養われる自ら学び考える力と豊かな発想力
- ・自ら行う研究の成果を発表し、議論できる言語能力
- ・国際的視野をもって研究・社会活動できる能力